

大丸有まちづくり協議会 35周年記念号。



35th
Anniv.

2024 Spring

52

わたしたちのまちづくり。





わたしたちのまちづくり。



▼全長約1.2kmにおよぶ丸の内仲通り。
大丸有のまちづくりにとって、いまま重要な起点であり続ける。

35th ANNIVERSARY

わたしたちの 「まちづくり」を ご紹介します。

大丸有の街なかでふと目にする光景は、
わたしたち「大丸有まちづくり協議会」の
日ごろの活動とつながっています。
設立35周年を迎えたこの機に、
協議会を構成する各部会・委員会の
それぞれの活動や役割をご紹介しますとともに、
「まちづくり」にかける思いをお伝えします。

大丸有まちづくり協議会は設立35周年。

これから、みなさんと一緒に。



こんにちは、本誌を手にとっていたいただき、
ありがとうございます。
一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地
区まちづくり協議会、通称「大丸有まちづく
り協議会」の事務局長を務める金城です。
今年度で35周年を迎えた大丸有まちづくり
協議会。この名前を街なかで見かけていた
いたことはありませんか？ 丸の内仲通りで毎
日開催されているアーバンテラス（丸の内二
丁目、三丁目）。それに伴う交通規制のお知
らせ看板で気づいていたいたかもしれません
。また、綱引きや駅伝、イルミネーション
等、街で開催するイベントの実行委員会に参
加することがあり、その掲示で気づいてくだ
さったかもしれません。

今日は、職場のオフィスにいらしたのでし
ようか。ビジネスコミュニケーションのため、
食事や買い物、誰かと大切な時間を過ごすた
め、絵画鑑賞、散策、ご自身がリラックスす
るため、さまざまな思いでこの街にいらして
いると思います。生活のひとときをこの街で、
快適に有意義に、ときにワクワクする思いで
過ごしていただけるよう、わたしたちは活動
しています。

Atsuhiko Kinjo



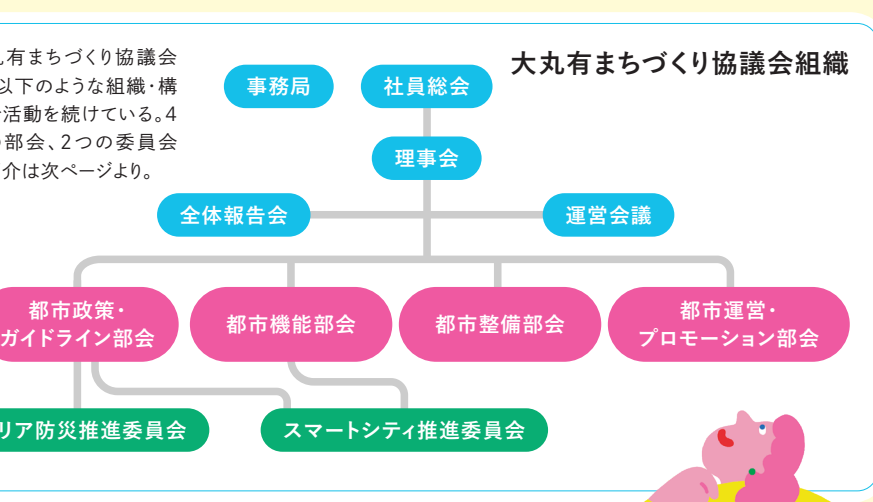
一般社団法人
大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会 事務局長
金城 敦彦

群もあって、歴史の奥行きを感じることがで
きます。

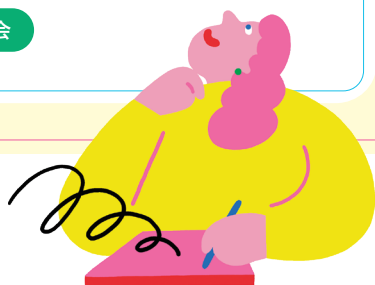
もともと大丸有地区は、江戸期には大名屋
敷街、明治に入ると新政府の官公庁街であり、
明治中期の1890年には多くの土地が民間
に払い下げられ、いまに至るまちづくりがス
タートしました。1910年に有楽町駅が、
1914年に東京駅が開業するとビジネス街
としての機能集積が進みました。1955年
以降、大手町の官公庁用地も民間に払い下
げられ、地下鉄網の整備も進み、現在の都心ビ
ジネスエリアとしての大丸有の骨格ができま
した。

こうした街の成り立ちの中で、城下町に由
来する大手町、丸の内といった地名、大名小
路という通り名、また赤煉瓦が特徴的な三菱
一号館（1894年竣工。2009年復元）
や東京駅（1914年竣工。2012年復原）、
明治生命館（1934年竣工）をはじめとす
る歴史的建造物群、そのほかにもクラシカル
な建物・外観を残したり再生したりする建物

丸の内仲通りが歩きやすく、歩行者に開放
することができるとは、沿道の建物所有者が
この通りを大切に、建物のラインを整え、
広告物を抑制してくれているうえに、駐車場
の出入り口をここにはつくらなくていい
からでもあります。



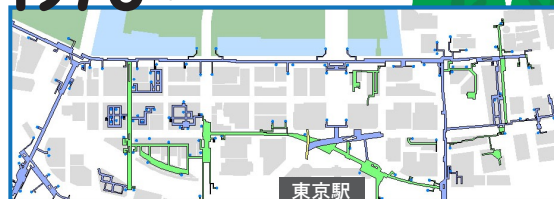
大丸有まちづくり協議会で活動する各社
のみなさんと同じく、我々事務局員も、こ
の街に通い、この街で仕事をするワーカー
です。本誌をお読みくださったあなたと一
緒に、これからもこの街を育てていきたい
と思います。



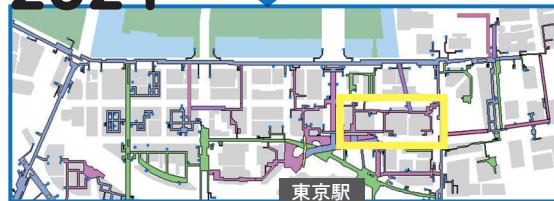
▼皇居側を起点として離れていくほど、約100m、約150m、約200mとスカイラインが高くなっていく。さまざまな場所から、皇居周辺の豊かな緑や濠の水景も含めて、象徴的な景観を望むことができる。



1970年



2024年



地下における歩行者ネットワークの整備状況の推移。黄色の枠で囲った場所が、記事内で紹介している、とくに楽しい歩行者空間。(大丸有まちづくり協議会の資料より抜粋・改変)

大丸有の将来像・9つの目標

- 1 時代をリードする国際的なビジネスのまち
- 2 多様性にあふれた文化や価値を共創するまち
- 3 情報交流・発信のまち
- 4 風格と活力が調和するまち
- 5 便利で快適に歩けるまち
- 6 環境と共生する持続可能なまち
- 7 安全・安心なまち
- 8 新技術やデータを活用するスマートなまち
- 9 地域、行政、来街者が協力して育てるまち

「大丸有まちづくりガイドライン 2023」より

▼日比谷通りでは、「街並み形成型まちづくり」の中でも、建物や壁面の連続性を重視した「街並み調和型」の整備が進められた。百尺(約31m)の高さを表情線として、ビルがそれぞれに風格を備えている。



都市政策・ガイドライン部会

ガイドラインをまちづくりの羅針盤として。

昨年12月に「大丸有まちづくりガイドライン2023」が公開されました。大丸有まちづくり協議会と東京都、千代田区、JR東日本の4者によって構成された懇談会を経て、これまでの内容に改訂を加えた最新版です。この公民連携の懇談会を運営し、変わりゆく情勢に対応するガイドラインとしてアップデートを続けていくことが、〈都市政策・ガイドライン部会〉の重要な役割になります。

「このガイドラインは、およそ20年後の将来像を見据えているところが大きな特徴です。20年後の大丸有のあるべき姿を模索し、ヴィジョンを描き出すとともに、それをみんなで実現していくための手法やルールを提示しています。実際に、公共と民間が一緒になつて取り組んでいくにあたっては、わたしたちの部会が民間側の土台になっていると言えるでしょう」

ガイドラインの中に記された「基本理念」

は、公民が協力してまちづくりを実現していくうえでの指針を集約したもの。「開かれたまちづくり」もそのひとつであり、ガイドラインの更新に際しては、事前に改訂案を一般公開し、パブリックコメントも募集するなど、多様な意見を参考にしながら検討を進めています。また、あわせて総合的なサステイナブル・ディベロップメント(持続可能な開発)の実現に向けて、大丸有の将来像として9つの目標を掲げています。

「これらの目標を実現していくうえで、『ゾーン、軸、拠点によるまちづくり』という視点がとても重要です。約120ヘクタールにおよぶ大丸有地区に、ゾーン、軸、拠点を設定し、それらを踏まえて都市機能を効果的に配置していく。たとえば、駅周辺には機能性をぐっと集積する一方で、骨格たるエリアや通りは都市景観として美しく整備していくなど、メリハリをつけて、その場所ごとに特色を持たせながら、全体を構成するというアプローチです」

そうした都市機能を維持してい

くためには、各種のライフラインを含む「都市基盤施設」の拡充も不可欠。その一環として、とりわけ、みなさんにも身近に感じてもらえるのが「歩行者ネットワークの整備」という取り組みです。

「地上だけでなく地下でも、利便性と回遊性を備えた歩行者環境づくりに努めてきました。その成果のひとつが、新丸ビル、日本工業倶楽部会館・三菱UFJ信託銀行本店ビル、丸の内永楽ビル『iiryo!!』まで連なる空間。地上にも地下にも、飲食をはじめとしたショップが充実し、建物の内外を自在に行き来できます。これらのビルは竣工時期が異なるわけですが、それぞれのビルにおいて、ゆくゆくは通路として開通させる地下空間を設けておくといった準備をすることで、隣接するビルが完成した際に動線をつなげられるのです。地権者にご協力いただき、こうした取り組みをひたすら重ねて、地下でも歩行者ネットワークを広げてください。このガイドラインに基づいて、行政もしっかり指導してください。公民でこのガイドラインを羅針盤のようにとらえて、ともにまちづくりを進めてきたという実感がありません」

もうひとつ、多くの人にとって馴染み深いのが、東京駅周辺や丸の内仲通りをはじめとする魅力的な風景。こうした都市景観づくりにおいては、その場所ごとにふさわしいアーバンデザインを提言してきました。

「具体的には『街並み形成型まちづくり』や『公開空地ネットワーク型まちづくり』といった手法を使い分けています。さらには、建物上部の輪郭線である『スカイライン』を守っていくことも重視していて、場所によって一定の高さ制限を設けることで、統一感のある景観をつくりだすとともに、拠点エリアにおける機能集積にもつなげています。皇居側から大丸有に向かって、すり鉢状にせり上がっていく美しいランドスケープが実現できたのも、みんなでこうした取り組みを続けてきたからこそ。大丸有のさまざまな風景が、このガイドラインに基づいて議論を重ねたうえで形成されてきたものと言えます」

Mariko Shigematsu

「大丸有まちづくりガイドライン」を羅針盤として、20年先の街がどうありたいか、そのためにいま何をするべきかなど、一歩先の街のあり方を議論・推進しています。スマートシティ化やエリア防災といった新しいテーマや、都市政策と連動した取り組みも進めているところです。



都市政策・ガイドライン部会長
三菱地所株式会社 都市計画企画部
ユニットリーダー

「大丸有まちづくりガイドライン 2023」はこちらから



重松 真理子

Before

▼「大手町連鎖型都市再生プロジェクト」が進められる以前の大手町。金融、情報通信、インフラ事業などを担う企業が集積し、そうした企業にとっては、ほかの地区への移転や稼働の中断を避けたいため、ビルの老朽化が進んでいても建て替えが難しかった。



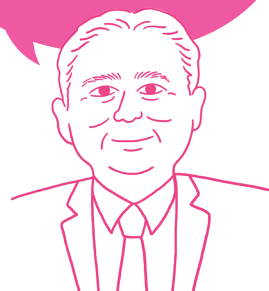
After

▼現在は「第4次再開発事業」として、「TOKYO TORCH」街区（写真内ではJR線路の左側）の開発が進められている。2028年3月末に竣工を予定し、長きにわたる「大手町連鎖型都市再生プロジェクト」も完結を迎える。



Shigeo Tsukimura

当部会は都市整備全般の推進を担い、大丸有および周辺の開発計画に着目しながら、地域特性をいかしたまちづくりを進めています。ウォークアブル空間や駐車場地域ルールを運営するほか、ライフライン、防災、ICT（情報通信技術）におけるハード面の構想や整備計画も検討しています。



都市整備部会長
株式会社サンケイビル 事業本部
ビル営業部長

月村繁雄

「多くの地権者とともに、東京都、千代田区といった行政の方々とも合意形成を図りながら、大丸有および周辺の開発計画を着目しながら、地域特性をいかしたまちづくりを進めています。ウォークアブル空間や駐車場地域ルールを運営するほか、ライフライン、防災、ICT（情報通信技術）におけるハード面の構想や整備計画も検討しています。」



OTEMACHI RIVERSIDE DOG PARKはこちらから

都市整備部会 ビジョンを示し、 ハード整備につなげる。

4つの部会の中でも、都市環境のハード面での整備について扱っています。とくに、現在も継続中の「大手町連鎖型都市再生プロジェクト」を進めるにあたっては、そのビジョンを示す重要な会議の運営や取りまとめなどを担ってきました。既存の老朽化したビルを使用しながら、近くの種地に新たなビルを建設していくという仕組みで、「連鎖型」の名の通り、事業活動を中断することなく、建て替えや移転を進めていくプロジェクトです。

「多くの地権者とともに、東京都、千代田区といった行政の方々とも合意形成を図りながら、大丸有および周辺の開発計画を着目しながら、地域特性をいかしたまちづくりを進めています。ウォークアブル空間や駐車場地域ルールを運営するほか、ライフライン、防災、ICT（情報通信技術）におけるハード面の構想や整備計画も検討しています。」



BATON PARK - KAWABATA RYOKUDO-はこちらから

35th ANNIVERSARY わたしたちのまちづくり。



▼左／採蜜は4月から8月までの間、約2週間に1回行われる。昨年の養蜂活動の累計参加者数は約230人、採蜜量は557.5kgだった。▼右／「丸の内ハニー」は、複数の花から採蜜された「百花蜜」。およそ2週間ごとに味が変わり、2〜3回続けて食べてみると、味の違いがわかるそう。



都市機能部会

環境と共生する 「持続可能なまち」に。

「スマートシティ化への取り組み、DX・GX推進、ウェルビーイングの実現など。都市での活動において、どんな機能があるとワークや来街者の利便性や快適性を高め、街を活性化させられるのか。この部会では、大丸有エリアにふさわしい都市機能のあり方や方策などを検討しています」

近年は環境に配慮したまちづくりに注力し、そのひとつが「丸の内ハニープロジェクト」です。2015年に「銀座ミツバチプロジェクト」（通称 銀ばち）と「一般社団法人日本工業倶楽部」の共同活動として、セイウミツバチの都市養蜂をスタート。2016年に実行委員会を組成し、エリアの活動として取り組んでいます。花粉や蜜を集めて植物の受粉を助けるミツバチは、都市の緑化促進や生物多様性には必要不可欠。養蜂体験は自然保護に

Youhei Kano

地域のみならずとともに公民協調を図り、他地区とも連携しながら、「大丸有SDGs ACT5」をはじめとした各種SDGs施策、グリーンインフラの整備を推進してきました。「環境共生型の持続可能なまち」の実現に向けた活動を通じ、大丸有の魅力と価値の向上に努めています。



都市機能部会長
東日本電信電話株式会社 東京事業部
不動産企画部門 部門長

狩野洋平

「活動拠点は、日本工業倶楽部会館と丸の内ビルの屋上です。銀ばちがミツバチを育て、近隣のワークやレストラン・ホテルのシェフ、企業などにサポーターとして採蜜にご参加いただいています。養蜂活動はコミュニティ形成の場としての可能性もあり、エリアのブランディング向上や活性化につながるのではと期待しています」



丸の内ハニープロジェクトはこちらから



Oh MY Map!はこちらから



わたしたちのまちづくり。

デジタルとリアル、両面からスマートに。

大丸有のスマートシティ化に向けて、ビジョン・実行計画を策定。その中で都市の「アップデート」と「リ・デザイン」という2つの方向性を示しました。エリアマネジメントのあらゆる領域と連携し、街の快適性向上やマネジメント運営の高度化を図っています。

『都市のアップデート』においてはデジタル面の取り組みが中心となり、『Oh MY Map!』が代表例です。エリアマネジメント組織の特性をいかして、それまで散在していたエリア情報を集約し、ワーカーや来街者に向けたマップ型のサービスとして提供しています。

もう一方の「都市のリ・デザイン」は、リアルな都市空間での取り組み。丸の内仲通りなどでは自動搬送ロボット「ハコボ®」による無人販売の実証実験を行ってきました。

「人とロボットが共存する街の検証を進めています。大丸有がますます歩行者中心となるなかで、かゆいところに手が届くサービスを実現したいですね」（同委員長 重松）



◀パナソニック ホールディングス社の自動搬送ロボット「ハコボ®」。丸の内では2022年からいち早く実証実験をスタートし、カブセルトイや軽食、熱中症対策の冷水などの無人販売を実施してきた。



◀「Oh MY Map!」はアプリ版とウェブ版で提供中。イベント情報や利用可能なモビリティなどをチェックできる「移動回遊ver」と、地下通路の段差・傾斜、エレベーターやトイレの位置に加えて、防災・災害情報も確認できる「スムーズ地下・防災ver」を切り替えて使用できる。

スマートシティ推進委員会



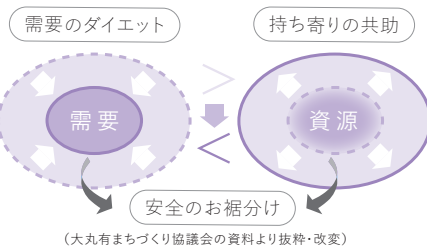
エリア全体で“もしも”を乗り切る。

大丸有では、街の防災をエリア全体の使命ととらえ、この委員会を中心に、有事に打ち克つための体制整備に取り組んでいます。そのひとつが、防災における共通意識と行動規範を示した「地区防災計画」の策定です。

「共通意識は“わたしたち”を主語に、①災害への準備を怠らない ②慌てず、冷静に ③自主性をもつ ④まわりと協調して行動する」という心構えです。行動規範としては、①需要のダイエット（できることは自分で行い、配給物資などの需要を減らす）②持ち寄りの共助（公開空地を帰宅困難者の一時滞在施設として活用する）③安全のお裾分け（生まれた余裕をエリア内外の人にシェアする）。これらが、災害時に求められるわたしたち（大丸有の活動に関わる人々）の理想の姿であると考えています」（同委員長 中嶋）

委員会では地区防災計画の具体化に向けて進行中。目下、企業・個人・行政と連携を図る仕組みを構築し、街の防災をマネジメントする“防災拠点”づくりを目指しています。

◀左／防災に関する勉強会や見学会などを開催し、エリア全体の災害対応力を高める取り組みを積極的に行っている。▶右／行動規範の実践は、災害が起きても自分たちで乗り切ることができる地区（災害時自立圏）の形成につながる。



大丸有地区・地区防災計画はこちらから



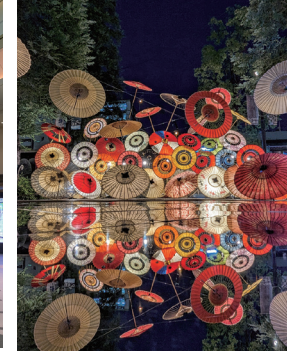
▲丸の内 納涼まつり

風鈴の心地よい音色を聞きながら、打ち水にも参加できるなど、行幸通りが涼を楽しめる空間に。かき氷の人気店もキッチンカーで特別出店した。



▲OPEN CITY MARUNOUCHI

駅、ホテル、名建築、地下空間など、大丸有のさまざまなスポットを探訪できる、まち歩きツアーイベント。2024年は11月に開催予定。



▲和ルミネーション

日本が誇る伝統工芸品である和傘を、自在に駆使したイルミネーションイベント。6回目となる昨年は、大手町仲通りと丸の内北口ビルを会場に実施された。

〈都市運営・プロモーション部会〉が運営に携わっている主なイベント

- ・丸の内 納涼まつり (7月28日・29日)
- ・大手町縁日 (8月3日・4日)
- ・Marunouchi Street Park (夏期:7月27日～9月21日 冬期:11月28日～12月25日)
- ・OPEN CITY MARUNOUCHI (9月7日～9日)
- ・鎌倉橋 橋洗い (10月5日)
- ・和ルミネーション (10月25日～27日)
- ・FACE シンポジウム (11月28日)
- ・丸の内クリスマスパレード (12月22日)

*()内は、2023年の開催日です

都市運営・プロモーション部会

まちづくりを、もっと多くのみなさんと。

この部会では、年間に大丸有で開催されるさまざまなイベントを、主催や協力といったかたちで管理・運営するとともに、そうした取り組みをより多くの方に知ってもらうために、プロモーションやコミュニケーション活動を続けています。「NPO法人大丸有エリアマネジメント協会（リガール）」や「DMO東京丸の内」、「大丸有環境共生型まちづくり推進協会」などと連携し、大丸有ならではの風物詩的な催しも実現してきました。

「昨年7月に開催した『丸の内 納涼まつり』は、“江戸の夏の景色”をテーマとして、行幸通りに風鈴を10000個以上も展示しました。どなたでも参加できるイベントで、打ち水を体験できるなど、近隣にお勤めの方にも、来街の方にも楽しんでいただけたと思います。私たちも浴衣を着て参加しました」

Shigeaki Tanaka

エリアマネジメント組織（リガールやDMO東京丸の内）と活動情報を共有し、イベントなどを効果的にプロモーションしていくことで、地域全体のブランディングを推進しています。活気に満ちあふれて、周辺のワーカーにも来街者にも、さらに愛される街を目指したいと考えています。



都市運営・プロモーション部会長
株式会社ニッポン放送 常務取締役

田中成明

本誌『ON』の制作・刊行も、〈都市運営・プロモーション部会〉が担当しています。大丸有エリアのまちづくりに関する最新情報や、新旧が調和する街の魅力を伝えていく、大切なメディアのひとつです。

「大丸有はここ20年ほどで店舗が増え、週末も訪れたい、にぎわうビジネス街になりました。ストリートでさまざまなイベントが開催できていますが、これも行政とエリアの地権者が一緒に考えて、長年まちづくりを進めてきた成果です。関連情報をみなさんに届け、参加していただいて初めてにぎわいになるのです。連携するほかの地域においても、大丸有のまちづくり事例を役立てていただけたらうれしく思います」

大丸有のとおき。

Kanda Kikukawa Hibiya

店名 神田きくかわ 日比谷店

メニュー うな重(イ)



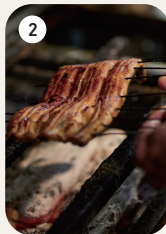
6

都市運営・
プロモーション部会
田中部会長

ちょっと奮発して
という日の
とおきのお屋は
「鰻」です。



1



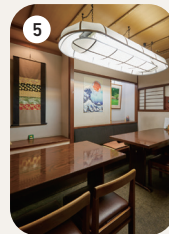
2



3



4



5

うな重(イ) 4,950円(税込)

- ①うな重(イ)。肝吸い、香の物、デザート(ライチ)がつきます
- ②金串を打った鰻を炭火で丁寧に焼きます ③タレは3度つけて焼き上げる
- ④右端の容器にはタレが入っています ⑤この部屋の名前は「うなぎや」
- ⑥地下2階の入り口を一步入ると店内は長屋風の付まい

帝国劇場の地下2階、1966年に開店した歴史あるお店。劇場関係の方から、近隣のワーカーに、大丸有を訪れる方々まで、幅広いファンが集います。「うちのタレは、レンゲの蜂蜜を使っているのだから甘さに丸みがあり、くどくありません。金串の熱伝導を利用して、じっくり焼き上げた鰻によく合います」と木下店長。うな重(イ)の味わいを思い出しながら、その話に大きくうなづく。厨房では、渡辺料理長が、一枚ずつ丁寧な手さばきで鰻を焼いていきます。3度タレをくぐらせて焼き上がった鰻が重箱に納められ、お客様のもとへ。「うな重の(ロ)と(ハ)は、焼き上げた鰻を切らずに、尻尾部分を折り返して重箱に入れます。1尾半または2尾が入っています」と再び木下店長。太い鰻が使われる「特選井」、大きな鰻を使う「うな重(ハ)」は数量限定のメニュー。うな重(イ)(ロ)(ハ)の3種に特選井、食べ比べたい衝動に駆られます。

神田きくかわ 日比谷店
千代田区丸の内3-1-1帝国劇場地下2階サブモール
TEL:03-3211-4939
営業時間:平日11:00~21:00(20:15 LO.)
土曜・祝日11:00~20:00(19:15 LO.)
定休日:日曜
席数:全114席(部屋4、お座敷1)

鰻の味わいをお楽しみください。

丁寧にじっくり
焼き上げます。



神田きくかわ日比谷店 料理長 渡辺薫さん

Minatoya 2

店名 港屋2

メニュー 冷たい肉そば

6



都市運営・
プロモーション部会
宮内副会長

並んで食べる
価値のある
とおきの
「立ち食いそば」です。

平日のお昼どき、星のや東京の横にできる謎の行列の先にある立ち食いそば「港屋2」。「江戸から東京に伝わる屋台文化を独自のエッセンスで表現した」という、隠れ家のようなじつに個性なお店です。メニューは「冷たい肉そば」一品のみ。行列の前の人に続いて券売機でチケットを買い、外からは様子が見えない店内へ。カウンターで出来たての冷たい肉そばの丼、辛味オイルの入ったそばつゆ、生卵がのったトレイを受け取ってから、大きなテーブルに移動し、早速いただきます。辛味の効いたつゆと歯応えのいいそばに感嘆しつつ、まわりを見わたすとそれぞれの食べ方で黙々とそばをすすり、途中で生卵をつゆに入れる人、そばの上に卵を割り入れる人など、フリースタイルで味わっていました。店主の五十嵐さんは「朝から仕込んだそばをできるだけおいしく食べていただきたい。早ければ早いほどおいしいですよ」と言います。

港屋2
千代田区大手町1-9-1 星のや東京1階
TEL:設置されていません
営業時間:11:30~14:30
※なくなり次第閉店
定休日:土曜・日曜・祝日
席数:全12席(立ち食いテーブル)

ぜひ港屋2の
そばを目指して
食べに来てください。



港屋2 店主 五十嵐千賢さん



1



2



3



4



5

冷たい肉そば 1,000円(税込)

- ①冷たい肉そば(たっぷりの海苔・胡麻・ねぎがのる)。生卵、辛味オイル入りのそばつゆ ②黒い券売機(千円札しか使用できません) ③12名が入れるバーのような店内 ④「そば湯」はカップでいただく ⑤開店から閉店まで黙々と冷たい肉そばをつくる五十嵐さん ⑥小さな表札のような看板



意外な点で
つながる
3都市の
作品

ART&CULTURE

大丸有でアートもカルチャーも。

地獄極楽
めぐり図も
すべて公開!



東京国立近代美術館

TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション

パリ市立近代美術館、東京国立近代美術館、大阪中之島美術館の3館が所蔵する名作に、主題やモチーフといった共通点を見いだし、組み合わせて展示。洋の東西や時代の垣根を越えて、モダンアートの新たな楽しみ方を提案する。

- 会場：東京国立近代美術館
千代田区北の丸公園3-1
050-5541-8600
- 会期：5月21日(火)～8月25日(日)
*大阪中之島美術館では
9月14日(土)～12月8日(日)
に開催
- 展示時間：10:00～17:00
(金曜・土曜は～20:00)
- 休館日：月曜(ただし7月15日、
8月12日は開館)、



ラウル・デュフィ《家と庭》1915年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées/Musée d'Art Moderne de Paris (トリオ、テーマ《空想の庭》より)

江戸～東京
における
人と動物の
関係性とは?

東京ステーションギャラリー どうぶつ百景 江戸東京博物館コレクションより

犬や猫、猿や鳥など、さまざまな動物が描かれた江戸時代以降の浮世絵、工芸品、染織を一堂に展示。江戸東京博物館の61万点もの所蔵品の中からよりすぐり、当時の人々がどのように動物と向き合い、ともに暮らしてきたかを浮かび上がらせる。

- 会場：東京ステーションギャラリー 千代田区丸の内1-9-1
03-3212-2485
- 会期：4月27日(土)～6月23日(日) *会期中、展示替えあり
- 展示時間：10:00～18:00(金曜は～20:00)
- 休館日：月曜(ただし4月29日、5月6日、6月17日は開館)、
5月7日



歌川広重《名所江戸百景 浅草田雨西の町詣》安政4(1857)年 江戸東京博物館蔵(5月28日から展示)

出光美術館「出光美術館の軌跡 ここから、さきへ」復刻 開館記念展

—仙厓・古唐津・中国陶磁・オリエント 4月23日(火)～5月19日(日)

インターメディアテク「特別展示『都市—エドキリエズ』」開催中～6月2日(日)

静嘉堂文庫美術館「超・日本刀入門 revive—鎌倉時代の名刀に学ぶ」6月22日(土)～8月25日(日)

東京国立近代美術館「所蔵作品展 MOMATコレクション」4月16日(火)～8月25日(日)

東京ステーションギャラリー「空想旅行案内人 ジャン＝ミッシェル・フォロン」7月13日(土)～9月23日(月・振休)

丸紅ギャラリー「和フリカー第三の美意識を求めて—」5月8日(水)～6月8日(土)

三菱一号館美術館 *11月22日(金)まで、設備入替および建物メンテナンスのため休館

On!
2024 Spring

『On!』のタイトルは「Old but New」の頭文字に由来するものです。
新旧の魅力がともにあり、常に前進を続ける
大丸有エリアのまちづくり情報や
おすすめスポットをご紹介します。

発行
一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-1-1
TEL 03-3287-6181 FAX 03-3211-4367
<https://www.tokyo-omy-council.jp/>



35th
Anniv.



静嘉堂文庫美術館

静嘉堂文庫竣工100年・特別展 画鬼 河鍋曉斎× 鬼才 松浦武四郎 「地獄極楽めぐり図」から リアル武四郎涅槃図まで

幕末から明治期にかけて名を馳せた絵師・河鍋曉斎と探検家の松浦武四郎。本展では、曉斎の代表作や武四郎が愛玩した品々を合わせて公開。二人の多才ぶりに迫るとともに、彼らを魅了した古物(文化財)の数々も紹介する。

- 会場：静嘉堂文庫美術館
千代田区丸の内2-1-1
明治生命館1階
050-5541-8600
- 会期：4月13日(土)～6月9日(日)
*会期中、展示替えあり
- 展示時間：10:00～17:00
(土曜は～18:00、
第4水曜は～20:00)
- 休館日：月曜(ただし4月29日、
5月6日は開館)、5月7日

河鍋曉斎「地獄極楽めぐり図」明治27(1886)～28(1887)年 静嘉堂文庫美術館蔵



大丸有まちづくり協議会 設立35周年記念イベント

謎解き観光ミステリー
「大丸有とヒミツの案内人」
～5月19日(日)まで



『On!』のバックナンバーの
閲覧はこちらから



大丸有まちづくり協議会の
Instagramはこちらから

